S=1/5

宇刈の大地の物語

大日ほたるの里公園で
200万年前にタイムスリップ！

ホタルの飛び交う，宇刈の豊かな水と緑の大地．
身近な自然の成り立ち「自然史」に，耳を傾けてみよう．

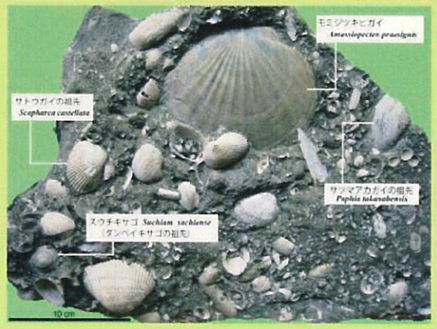
遠州地域の古地理（300万～200万年前）

地層と化石が語る「太古の遠州」

～200万年前，宇刈は熱帯～亜熱帯の海だった～

- ○ 遠州には，約500万～100万年前の海でたい積した地層が広く分布しています．
- ○ 地層の顔つき（層相）や出てくる化石は，地域ごとにちがっており，たい積した場所の環境を語ります．

袋井の地層と化石は「地球遺産」



- ○ 日本の暖流域は，世界的にみても海洋生物の種数が最も多い海域の一つです．
- ○ このように日本の海の生物が多様なのは，過去～現在まで幾度もくり返されてきた気候変動が，南方からの生物の侵入，定着や種分化をうながしてきたためです．
- ○ 遠州地域が海の底だった，500万～100万年前は，現在の黒潮動物群への移行期にあたります．モミジツキヒガイなどの絶滅種が広く分布する一方で，キサゴ類のように，現生種への段階的な進化が見られます．

キサゴ類の進化

「掛川動物群の模式産地」と「地球温暖化を伝えるタイムカプセル」

1 500万～100万年前に，西南日本の太平洋側に栄えていた暖流系動物群のことを，「掛川動物群」と呼びます．袋井市～掛川市には，掛川動物群を特徴づける重要な化石の模式産地が分布しています．

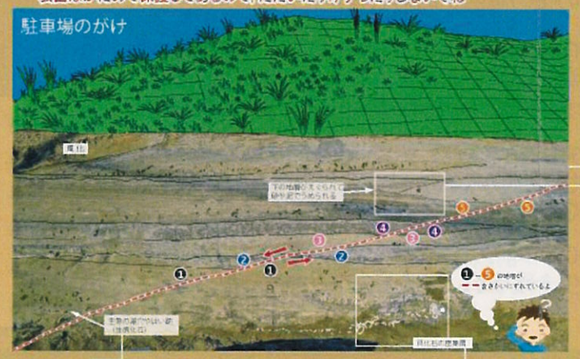
2 200万年前は世界的にも温暖化が進行した時代で，現在では熱帯域にしか生息しない種が袋井市の地層からも化石として産出します．これらの化石は，過去の「地球温暖化」の様子を伝えるタイムカプセルといえます．

地層の展示

宇刈地区とその周辺には，宇刈層と呼ばれる，約200万～160万年前に海で堆積した砂泥質層が分布しています．

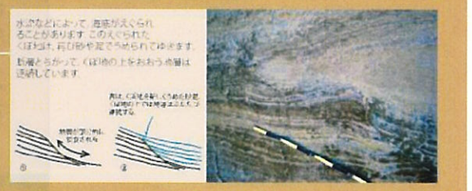
宇刈の里山の地下を見てみよう

表面はかためて保護してあるので，たたいたりけずったりしないでね



東どなりの崖にも同じような地層があらわれていました

泥層にくらべて，砂層の中の細かいしま模様はゆるく波うっています



長さ20cm以上にもなる巣穴の化石

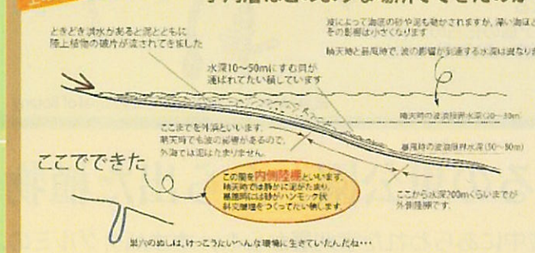
貝化石の密集層

砂層の中はきれいな三色のしま模様

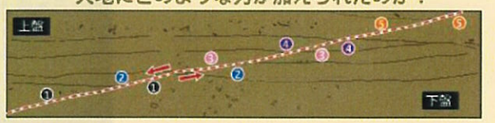
泥まじりな砂層の中には植物の破片がいっぱい

上の観察とてらし合わせてみよう

宇刈層はどのような場所でできたのか？



大地にどのような力が加えられたのか？



地層が不連続にずれていることを断層といいます．断層の上側にのっている地盤を上盤，下側の地盤を下盤といいます．上のかけでみられる断層の場合，地層あわせをやってみると，上盤がすべって下側に移動していることがわかります．このような断層を「正断層」といいます．

正断層は，図のように地盤を両側からひっぱるような力が働いたときにできます．